

平成30年12月11日
産業経済局MICE推進課

2017年 JNTO国際会議統計について

1 都市別国際会議開催件数

順位	2013年 (平成25年)		2014 (平成26年)		2015年 (平成27年)		2016年 (平成28年)		2017年 (平成29年)	
	都市名	件数	都市名	件数	都市名	件数	都市名	件数	都市名	件数
1位	東京(23区)	531	東京(23区)	543	東京(23区)	557	東京(23区)	574	東京(23区)	608
2位	福岡市	253	福岡市	336	福岡市	363	福岡市	383	神戸市	405
3位	横浜市	226	京都市	202	仙台市	221	京都市	278	京都市	306
4位	京都市	176	横浜市	200	京都市	218	神戸市	260	福岡市	296
5位	大阪市	172	名古屋市	163	横浜市	190	名古屋市	203	名古屋市	183
6位	名古屋市	143	大阪市	130	名古屋市	178	横浜市	189	横浜市	176
7位	千里地区	113	千里地区	104	大阪市	139	大阪市	180	大阪市	139
8位	神戸市	93	札幌市	101	神戸市	113	仙台市	115	北九州市	134
9位	札幌市	89	神戸市	82	札幌市	107	札幌市	115	仙台市	120
10位	仙台市	77	仙台市	80	千里地区	94	北九州市	105	札幌市	116
11位	北九州市	57	北九州市	73	北九州市	86	千里地区	85	千里地区	98
12位	つくば地区	51	つくば地区	66	広島市	59	広島市	76	広島市	87
13位	広島市	50	広島市	50	つくば地区	53	つくば地区	50	千葉市	57
14位	奈良市	31	奈良市	45	奈良市	36	千葉市	43	つくば地区	47
15位	千葉市	28	岡山市	33	岡山市	33	奈良市	39	金沢市	35
									岡山市	35

※1 千里地区とは、大阪府の豊中市、吹田市、茨木市、高槻市、箕面市エリアを指す。

※2 つくば地区とは、茨城県のつくば市、土浦市エリアを指す。

2 増加の要因

- ・MICE誘致のため、市や関係団体、関係企業等で「グローバルMICE推進協議会」を組織し、「チーム北九州」で一丸となってセールス活動を実施した。
- ・2015年に観光庁から「グローバルMICE強化都市」に選定され、海外専門家によるコンサルティングなどの支援を受け、積極的な誘致への取組の結果が実を結んだ。

3 2017年に開催された主な国際会議

- ・アジア管理学会 (AAOM) 参加者500人 (海外470人、21カ国)
- ・構造物の損傷評価に関する国際会議 (DAMAS2017) 参加者300人 (海外195人、17カ国)
- ・インテリジェントソフトウェアの方法論、ツール、テクニックに関する国際会議 (SOMET) 参加者480人 (海外250人、11カ国)

※ 本リリースは国土交通記者会・交通運輸記者会に配布しております。

平成 30 年 11 月 22 日
理事長 清野 智

2017 年 JNTO 国際会議統計

日本での開催件数は 6 年連続過去最高を記録

～国際会議件数 3,313 件、参加者総数 172.6 万人～

【開催件数】

- 日本政府観光局（JNTO）が、全国のコンベンション推進機関等からの情報を基にとりまとめたところ、2017 年に日本で開催された国際会議の件数(*1)は、前年比 6.2%増の 3,313 件となった。
- 都市別の開催件数は、1 位：東京 23 区（608 件）、2 位：神戸市（405 件）、3 位：京都市（306 件）であった。
- 2017 年に開催件数の伸びが大きかった都市は、神戸市（145 件増）、東京 23 区（34 件増）、北九州市（29 件増）であり、全体の件数増加をけん引した。

【参加者数】

- 2017 年に日本で開催された国際会議の参加者総数は、前年比 7.3%減の 172.6 万人であった。参加者数 200 人以下の小規模会議の開催件数の増加がみられたものの、中・大規模会議の開催件数の減少が影響した。

【分野】

- 分野別にみると、「科学・技術・自然」「医学」の分野での開催件数が全体の約 6 割を占めた。医学分野からは、『第 23 回世界神経学会議(WCN2017)』『(第 58 回日本神経学会学術大会と合同開催／京都／参加者数 8,641 人)』、『第 18 回世界肺癌学会議』(第 58 回日本肺癌学会学術集会と合同開催／横浜／参加者数 6,764 人)等の大型会議も開催された。
- 一方、「政治・経済・法律」「芸術・文化・教育」「社会」等の分野の開催件数は前年度より大きく増加した。特に、日本初開催となった『2017 世界女性サミット (GSW) 東京大会』(参加者数 1,600 人)は、国際的な注目を集めた。

【今後の取り組み】

- 日本国内各地で MICE(*2)施設の新設・増設が予定されており、MICE 誘致に向けた気運が高まっている。JNTO では、日本再興戦略で掲げられている目標「2030 年にはアジア No.1 の国際会議開催国として不動の地位を築く」の実現に向けて、官民一体となって国際会議の誘致促進を一層強化していく。

*1 (JNTO の国際会議は以下の基準で選定しています。)

- ①主催者 : 国際機関・国際団体（各国支部を含む）、または国家機関・国内団体
(各々の定義が明確でないため民間企業以外は全て対象)
- ②参加者総数 : 50 名以上
- ③参加国 : 日本を含む 3 か国以上
- ④開催期間 : 1 日以上

注：他の国際団体（ICCA、UIA）による国際会議統計の基準とは異なります。

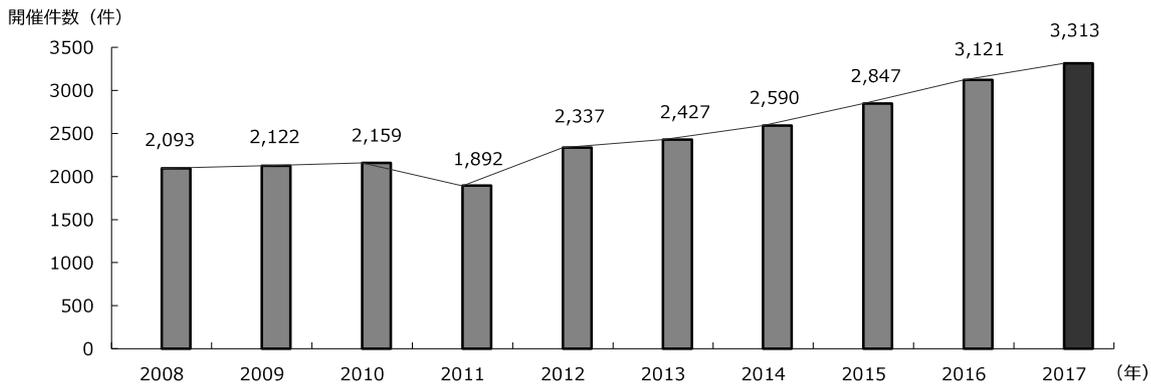
*2 MICE とは

企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

【お問い合わせ先】

企画総室 調査・マーケティング統括グループ
(遊佐、森川) TEL 03-6691-0939

資料1 日本の国際会議開催件数（2008年～2017年）



資料2 都市別 国際会議の開催件数（2013年～2017年）

順位	2013年	件数	2014年	件数	2015年	件数	2016年	件数	2017年	件数
1位	東京(23区)	531	東京(23区)	543	東京(23区)	557	東京(23区)	574	東京(23区)	608
2位	福岡市	253	福岡市	336	福岡市	363	福岡市	383	神戸市	405
3位	横浜市	226	京都市	202	仙台市	221	京都市	278	京都市	306
4位	京都市	176	横浜市	200	京都市	218	神戸市	260	福岡市	296
5位	大阪市	172	名古屋市	163	横浜市	190	名古屋市	203	名古屋市	183
6位	名古屋市	143	大阪市	130	名古屋市	178	横浜市	189	横浜市	176
7位	千里地区	113	千里地区	104	大阪市	139	大阪市	180	大阪市	139
8位	神戸市	93	札幌市	101	神戸市	113	札幌市	115	北九州市	134
9位	札幌市	89	神戸市	82	札幌市	107	仙台市		仙台市	120
10位	仙台市	77	仙台市	80	千里地区	94	北九州市	105	札幌市	116
11位	北九州市	57	北九州市	73	北九州市	86	千里地区	85	千里地区	98
12位	つくば地区	51	つくば地区	66	広島市	59	広島市	76	広島市	87
13位	広島市	50	広島市	50	つくば地区	53	つくば地区	50	千葉市	57
14位	奈良市	31	奈良市	45	奈良市	36	千葉市	43	つくば地区	47
15位	千葉市	28	岡山市	33	岡山市	33	奈良市	39	金沢市	35
									岡山市	

(注1) 千里地区：大阪府の豊中市、吹田市、茨木市、高槻市、箕面市
 (注2) つくば地区：茨城県のつくば市、土浦市
 (注3) 1つの国際会議が複数の都市で開催された場合は、それぞれの都市で1件として計上している。

資料3 外国人参加者数及び参加者総数（2008年～2017年）

